

「かつてないほど厳しい結果になった。とにかく生きてほしい」。病氣、災害、自死などで親が亡くなったたり、重度障害になったりした高校生・学生を支援する「あしなが育英会」が、奨学生にアンケート調査を実施しました。11月末に記者会見で公表。週児家庭の苦境が明らかにになりました。
(染生ゆう子)

コロナ禍 あしなが育英会調査

調査は10月28日から11月5日にかけて実施。高校と大学、専門学校等に通う同会の奨学生全員とその保護者を対象に行い、6950人が回答しました。母子世帯が約8割強。父子世帯が1割強です。

非正規が3割超 「収入が減った」

回答した保護者の3割以上が、パート・アルバイトなどの非正規雇用です。3人に1人の世帯が収入が減ったと回答。1カ月の収入が20万〜30万円未満の世帯で、コロナ禍の影響が最も大きくなっています。収入に不安がある人が9割。過半数の世帯で交際費、食費、光熱費を切り詰めています。

会見した母親は、面接を30社受けてやっと決まったパートでは、週2、3日しか働けないため、以前と比べて月9万円も

廃棄野菜を食べ生活つなく



玉井さん

大学や専門学校などに通う学生では、2人に1人がアルバイト収入が減ったり、ゼロになったと回答しました。オンライン授業の整備に10万円以上かかった学生は17・8%

収入が減ると話します。別の母親は、4月から決まっていたパートの内定が電話一本で取り消されました。「農家から廃棄された野菜をもらい、食べられるものを採って食べてきた。1日1食食べるか、食べられないかの目もある。旅行に行く余裕はない。政府は困っているところを助けてほしい」と訴えました。

「退学を考えた」 学生4人に1人

収入不安9割／進学あきらめた／政府は支援を

「娘は大学受験に挑みたいと言うが、英検を受ける費用や参考書を買うお金もままならない。「あなたの子どもに生まれたのが恨めしい」と娘に言われ、どこかに消えてしまいたいと思ったこともありまして。子どもは「何で借金してまで大学進学しちゃったんだろう。大学なんて行かなきゃよかった」と泣いて落ち込んでいた。トラブルだらけのオンライン

お金ままならず恨めしいと娘に

保護者の自由記述から

ン授業に絶望し、友達も相談相手もない中、授業の課題などの提出に追われ、授業料の支払いだけ要求される。疲れ切った、食事もしっかりとれず睡眠も十分とれず瘦せていく子を支えたいと思いつながら、できることはあまりない。

「コロナによる解雇で求職中。今年大学受験なので受験費用、塾費用が一番にかかります。失業保険だけではまかなえない出費のことを考えると気が落ち着きません。学業をあきらめさせることだけはしたくない。

「退学を考えた」学生4人に1人は、退学を考えていました。「モチベーションが続かない」「11・5割」「家計が苦しくなり授業料が払えなくなった」「6・2割」などが理由です。自由記述には「アルバイトがないので食費を削っている。土日は友人からもらった乾パンで空腹

「50年目と聞いています。50年目と聞いては、問題が50年続いているということ。以前から環境が劣悪な週児家庭は、コロナという外的要因に耐えられませんが、さまざま可能性や希望を抱いている子ども



街頭募金ができないもかしさを訴える岡本さん(左)と、奨学生の小川康伸さん=11月30日、東京都内(写真はいずれもあしなが育英会提供)

「ごまかしている」「仕事をできなく、バイトもほとんど入っていないため1日1食しか食べられないようにしている」などの声がありました。高校生の回答には「専門学校へ行きたいと思っていたが、親の仕事が前よりなくなり、行きたいとは言えない。早く就職して収入を得たいの

「かもと悩んでいる」「今年の8月までは大学進学のための勉強を頑張ったけど、給付制奨学金を利用しても家計の負担は大きいし、借金はもっと不安なので、9月にあきらめる決断をしました」などの悲痛な声がありました。 遺児こそ教育を 「とことん支援」 学生募金事務局長の岡本蓮さんは、大手前大学で建築を学んでいます。 コロナのために、同会50年の歴史で初めて春と秋の街頭募金が中止に。クラウドファンディングを立ち上げて募金を呼びかけています。「50年目と聞いては、問題が50年続いているということ。以前から環境が劣悪な週児家庭は、コロナという外的要因に耐えられませんが、さまざま可能性や希望を抱いている子ども

「知らない」と答えた高校生が6割強いました。担当者は「制度がよく知られていないし、収入要件は当てはまるが成績の条件に合わず、申し込めないケースもある」といいます。 同会は4月、全奨学生に15万円の緊急支援金を支給。12月には20万円の年越し緊急支援金を支給します。玉井義臣会長は「週児家庭だからこそ教育を受けなければなりません。とことん面倒をみることを約束したい」と表明。政府に対して「一律の給付金を求めていきたい」と話しました。